



令和を迎えて



国 籍 フィリピン
職 種 とび
実習実施者 株式会社河建
監 理 団 体 協同組合 J&J 田原

ガルシア カーロマル ラザロ
GARCIA CARLOMAR LAZARO

5月になりました。私にとっては4回目の日本で迎える5月です。でも、今年の5月は今までとは違います。特別なものです。なぜなら、5月から元号が代わるからです。今までは「平成」でしたが、これからは「令和」になります。

私の国には元号がありません。初めて日本に来たとき、年の書き方がふたつあることに驚きました。会社の先輩に聞いたら、元号は日本オリジナルの年の区切り方で、天皇が代わると元号が代わるんだと教えてくれました。

元号が代わるのが決まってから、毎日いろいろなメディアで話題になっていました。新しい元号がどんなものになるのか、予想するテレビ番組をたくさん観ました。新聞でも、ラジオでも、たくさんそのような記事を観ました。すべての日本人が興味を持っているように見えました。最初、私はこんなにみんなが盛り上がっている理由がわかりませんでした。大晦日から元日になる時は、新しい一年が始まる時ですから、みんなでお祝いするのは自然なことだと思います。でも、元号が代わることの何がそんなにすごいのか、わからなかったのです。そんな私でしたが、毎日なんだかお祭りのようで、い

つの間にかわくわくしてきました。

4月の終わり頃に、新しい元号が「令和」と発表されました。よくわからないけれど、カッコいい言葉に思えました。私は、どういう意味の言葉なのか知りたくて、先輩と一緒に調べました。

「令和」は、日本の古い本に書かれている言葉なのだそうです。その本は梅の花について書かれたもので、春の月夜にやさしい風が吹いて、梅の花が美しく咲く場面が表現されています。そのため、「令和」には「人々が美しい心で協力することで国は発展する」という意味が込められているそうです。さらに安倍首相は、「若者がそれぞれの花を咲かせて活躍できる国をつくりたい」と言っていました。私は、とてもすばらしい言葉だと思いました。

このとき、私気づきました。元号は、日本にしかないものです。だから、日本人は元号をとっても大切にしていって、誇りを持っています。元号の教えから外れないように、恥ずかしくないように、生きているのだと思います。日本人のやさしさも、真面目なところも、元号が支えているのかもしれない。

日本人でも、一生に一度も元号交代のタイミングに立ち会えない人もいます。私はとてもとてもラッキーでした。私は日本人ではないけれど、「令和」の時代を生きる人間です。日本でも、フィリピンに帰ってからも、自分らしい花を咲かせて、活躍したいと思います。